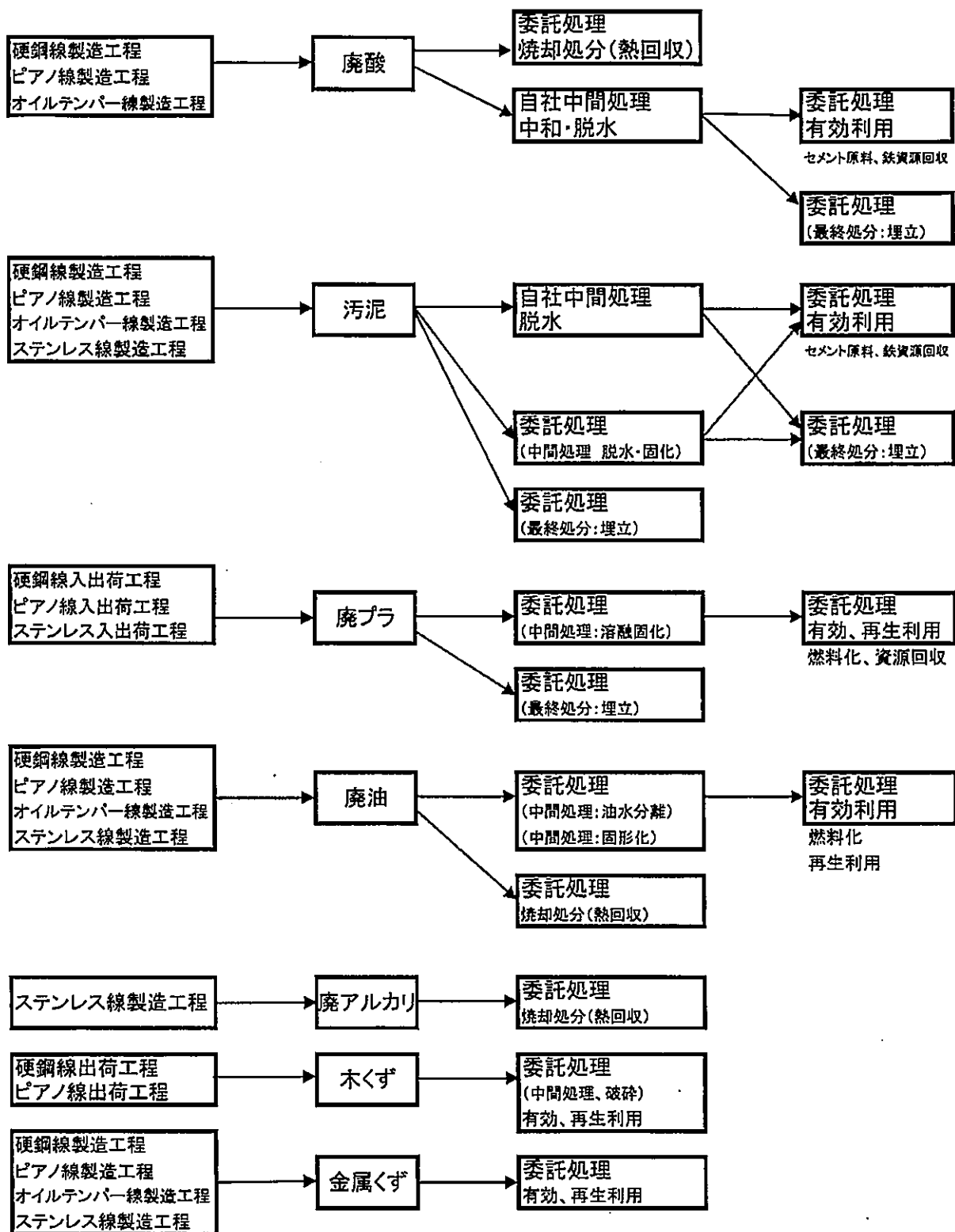


(第1面)

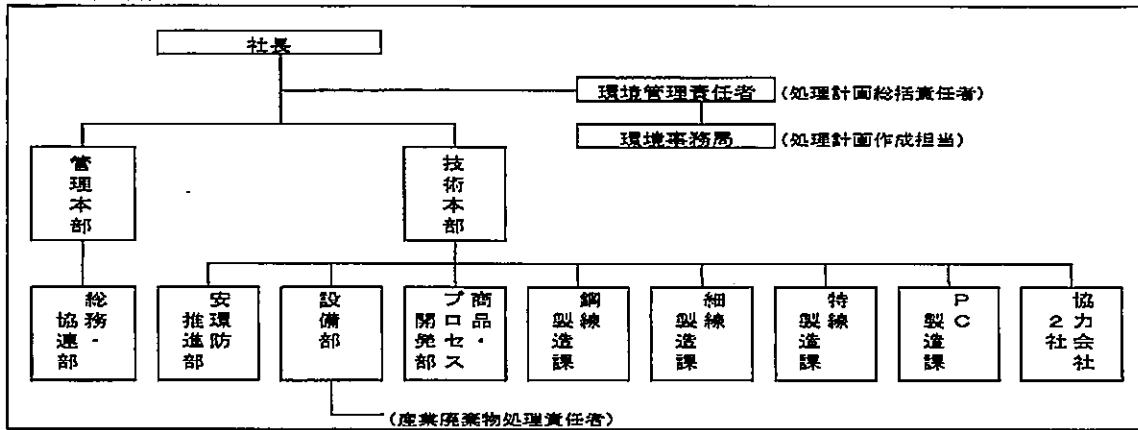
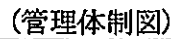
産業廃棄物処理計画書	
令和7年5月26日	
千葉県知事 熊谷 俊人 殿	
提出者	
住 所 東京都千代田区丸の内1-9-1 (丸の内中央ビル11階)	
氏 名 日鉄SGワイヤ㈱代表取締役社長 田邊 孝治 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 03-3214-4131	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日鉄SGワイヤ株式会社
事業場の所在地	千葉県習志野市東習志野7丁目5番地1号
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：鉄鋼業
②事業の規模	前年度製品出荷額 210億円
③従業員数	405人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1記載



別紙1 産業廃棄物の処理工程



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	排 出 量	6265.1 t	0.3 t
	（これまでに実施した取組） 排水処理場の汚泥に関しては、脱水機を使用して排出量削減を図っている		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	排 出 量	6200 t	0.3 t
	（今後実施する予定の取組） 現状と同じ		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の種類毎に専用の置場で分別して保管されている
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状と同じ

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 使用済み伸線潤滑剤をフィルター分離処理し再利用可能分を抽出する		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 現状と同じ		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	5592 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・引抜スラリーをフィルタープレスで脱水処理 ・これまでに自社で熱回収は行ったことがない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	5550 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自ら熱回収の予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまでに自ら埋立処分、海洋投入処分を行ったことがない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自ら埋立処分、海洋投入処分する予定はない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

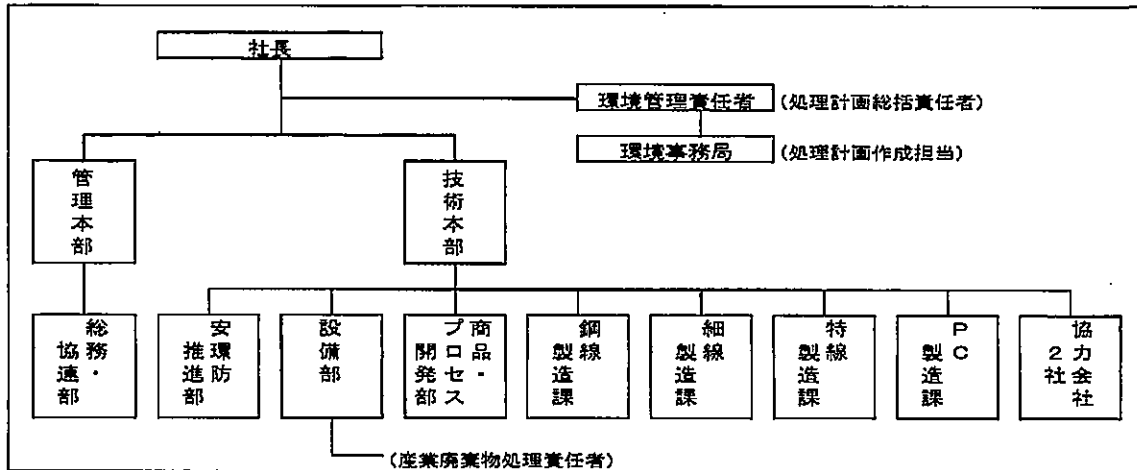
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	全処理委託量	673.1 t	0.3 t
	優良認定処理業者への処理委託量	480.6 t	0.3 t
	再生利用業者への処理委託量	208.7 t	0.3 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・再生処理可能な業者に委託している ・優良認定業者へ委託している		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず
	全処理委託量	650 t	0.3 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	600 t	0.3 t
	再生利用業者への 処理委託量	500 t	0.3 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	現状と同じ		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	排 出 量	2.3 t	49.5 t
	（これまでに実施した取組）		
	木くず：商品入荷時に付帯した木製パレットを購入元へ引取依頼する		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	排 出 量	2 t	45 t
	（今後実施する予定の取組）		
	現状と同じ		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の種類毎に専用の置場で分別して保管されている
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状と同じ

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 自ら再生利用は行ったことがない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自ら再生利用の予定はない		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまでに自ら中間処理及び熱回収は行った事がない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自ら中間処理、熱回収を行う予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまでに、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き埋立処分又は海洋投入処分する予定はない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

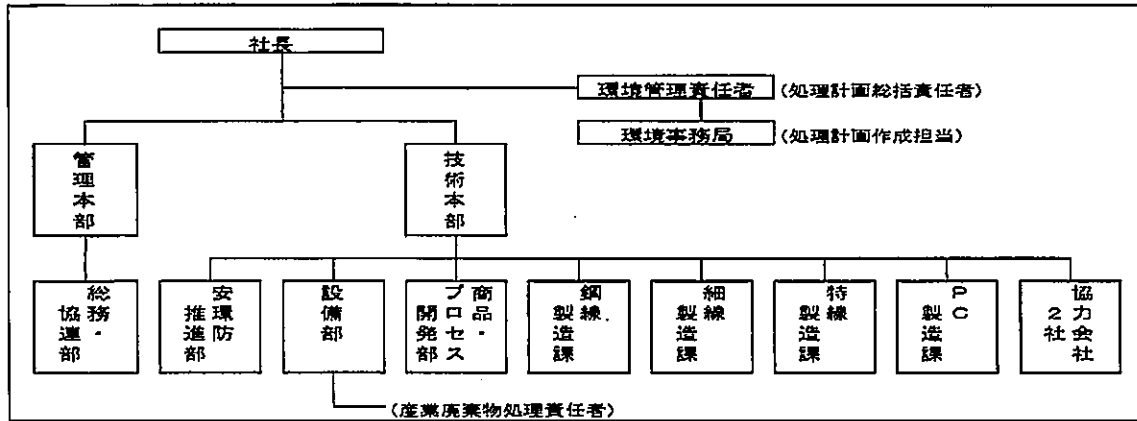
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	全 処 理 委 託 量	2.3 t	49.5 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	2.3 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	49.5 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	2.3 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 廃アルカリ：優良認定業者へ委託している 木くず：再生利用業者と有価引き取りの業者へ委託している		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	木くず
	全処理委託量	2 t	45 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	2 t	45 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	45 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	2 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	現状と同じ		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	排出量	1043.2 t	78t
	(これまでに実施した取組) 塩酸使用を見直し、廃酸の廃棄量を削減した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	排出量	1040 t	78t
	(今後実施する予定の取組) 現状と同じ		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラ：廃棄の際、再生可能な物と不可の物に分別している 廃酸：専用の保管槽で管理している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラ：異物混入による分別の不徹底を改善し、再生（有価物）の割合を増やす

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 自らの再生利用は行ったことがない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自らの再生利用の予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	501 t	0 t
（これまでに実施した取組） 廃塩酸：消石灰で中和後、フィルタープレスで脱水処理 廃プラスチック：これまでに熱回収、中間処理は行った事がない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	500 t	0 t
（今後実施する予定の取組） 現状と同じ			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまでに、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き埋立処分又は海洋投入処分する予定はない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	全処理委託量	542.2 t	78 t
	優良認定処理業者への処理委託量	483.2 t	43.6 t
	再生利用業者への処理委託量	482t	78 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1.2 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 廃プラスチック類は種類ごとに分別し、再生利用業者へ委託している		

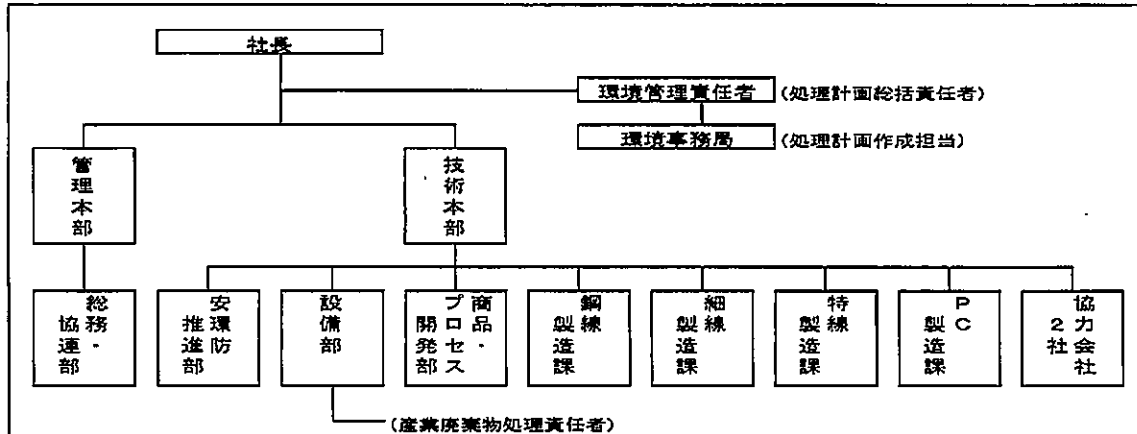
(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃プラスチック類
	全 処 理 委 託 量	540t	78 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	490 t	78 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	489t	78 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	1 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	・ 廃酸の有価処理を検討している		
※事務処理欄			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	排出量	62.7 t	17.8 t
	(これまでに実施した取組) 廃油：1) 防錆油塗布方法を変更し廃油量を削減する 2) 設備メンテナンスを強化し、機械故障による油交換頻度を軽減する		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	排出量	60 t	17 t
	(今後実施する予定の取組) 現状と同じ		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の種類毎に専用の置場で分別して保管されている
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状と同じ

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまでに自らの再生利用は行ったことがない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自らの再生利用の予定はない		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまでに自ら熱回収、中間処理は行ったことがない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引続き自ら熱回収、中間処理の予定はない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) これまでに自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 引続き埋立処分又は海洋投入処分する予定はない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	全 処 理 委 託 量	62.7 t	17.8 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	62.7 t	17.8 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	20.6 t	8.9 t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	16.1 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	26.0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)、 優良認定業者へ委託している		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	その他混合廃棄物
	全 処 理 委 託 量	60 t	17 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	60 t	17 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	12 t	9 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	15 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	33 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 現状と同じ		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。